



昭和60年頃
提供：大分県



明治36年頃(両郡橋付近)
提供：大分交通株

別大国道沿いの海岸線

田ノ浦海岸は、昭和30年代まで海水浴・磯遊びの場として親しまれ、近くを通る別大国道は別大電車や馬車が走っていた。田ノ浦ビーチは磯浜だったが、平成4年度から国・県・市の合併事業により、レクリエーションが楽しめる人工島の整備などが進められた。平成12年には、約30年ぶりに海水浴場が復活した。



昭和40年代前半
提供：日本銀行大分支店

中心市街地

昭和46年に長崎屋、昭和48年にジャスコ、ニチイ、ダイエーの3店が相次いで開店、昭和49年には日本銀行大分支店の跡地に西友ストア(後のパルコ)が進出した。トキハ本店は昭和50年に、増改築により売り場面積を倍増。大分市は大型店が立ち並び九州でも最大の激戦区であった。



昭和50年頃
提供：大分県

Changing Landscapes

変わりゆく風景



昭和47年頃
提供：大分県



新産業都市

新産業都市の建設は、恵まれた立地条件と国の全国総合開発計画の拠点開発構想の推進という国策のもと、高度経済成長に支えられ順調に進展していった。まず、昭和39年に九州石油(現：JXTGエネルギー)大分製油所が操業を開始、昭和44年九州電力大分発電所、昭和45年東芝大分工場(現：ジャパンセミコンダクター大分事業所)が稼働、さらに昭和47年新日本製鐵(現：新日鐵住金)大分製鐵所第1高炉に火が入り、鉄と石油の新産業都市の骨格が出来上がった。上の写真は、現在の7号地付近にあった海水浴場で、多くの人に利用されていた。



提供：新日鐵住金(株)大分製鐵所



昭和50年頃
提供：県住宅供給公社



昭和40年代中頃
提供：県住宅供給公社

明野

大分郡明治村猪野山であったこの地に戦後開拓が始まり、開拓農業協同組合設立準備会において明野と命名され、昭和38年の新大分市発足とともに大分市明野となった。大分市が新産業都市に指定されたことを契機に、昭和40年に造成を開始、県営住宅に次いで進出企業の社宅などが供給され、徐々にまちが形成された。